



宮司プレス百二十四号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十九年 七月 四日

◇宮司の柴田です。御神殿の北側と東側の

紫陽花(あじさい)の花が、水色やうす紅(くれない)の花を咲かせて色鮮やかです。先

代典行宮司が、丹精込めて植えたものです。

日本原産のアジサイは、「あづさあい」と呼ばれていたそうにして、「あづ」は集まる、

「さあい」は藍色(あいいろ)を意味しまして、青い花が集まった様子を表していたのだ

そうです。唐の時代の詩人である白楽天(はくらくてん)が、実は、違う花のことだ

ったそうですが、「紫陽花」と名付けて、漢字表記が日本に伝わったそうです。アジサ

イは、かつての日本では、あまり人気のある花ではなかったそうです。それは、白から

赤や青に次第に花の色を変えていくのが特徴で、「七変化」の別名があり、心変わり、

無節操に通じるとされていたからだそうです。アジサイの色が変わるのは、細胞に老

廃物(ろうはいぶつ)がたまる、いわゆる老化が原因だそうです。もちろん、他の植物

も同じように老化するのですが、アジサイほど目立たず、しかも、アジサイの花の寿命が

極めて

長いから、色の変化をたつぷりと楽しむことができるのだそうです。中世の室町時代に

「能(のう)」を一般大衆芸能から芸術、道に高め大成(たいせい)したといわれる世阿

弥(ぜあみ)が書き残した教育書である「風姿花伝書(ふうしかでんしよ)」には、「秘す

れば花 秘せずは花なかるべし」と書かれています。その鮮やかに美しく咲いている花

は、それ自体が、美しいのであって、多くを語ってはいけない、まさに、「秘めた多言(た

げん)」なのだと言(さと)されています。老化現象が、七変化で、色とりどりの花を結

構長く咲かせるなどと、多くを語ってしまいました。世阿弥さんから、叱(しか)られ

そうであります。私事で恐縮ですが、今月の二十七日で、五十五歳の齢を重ねること

になります。その「風姿花伝書」には、その年齢に応じた稽古の仕方が記されています

て、最高潮は、四十代前半で、その後は、下り坂なのだそうです。しかし、その四十代

からも、しっかりと稽古を重ねれば、有終の花を咲かせることができるとおっしゃって

います。アジサイが、老化現象で美しく花

を咲かせているわけですから、長寿社会でもありますので、加齢とともに、別の魅力を発揮したいものです。お待たせしました、

宮司プレス第百二十四号の発行です。遅れの累積減少の道のりは、なかなか険しく、本

来であるならば、第百三十四号の発行のはずでありますから、遅れの累積は、十ヶ月とい

うこととなります。

◇京都大学教授の中西輝政さんは、今の世界の混乱の要因は、「三つの極端」にあると仰

っています。アメリカや欧州に見られるグローバル化、リベラリズム、そしてアジアの

軍拡(ぐんかく)と独裁(どくさい)が同時並行(どうじへいこう)で起きているところ

にあるそうです。日本は、この三つの極端を避けて中庸(ちゆうよう)、その三つの極

端にかたよらず、中道(ちゆうどう)中正(ちゆうせい)を守らなければならない、その中

庸とは、日本の国の伝統を守ることなのだそうです。

◇民俗学者の柳田国男さんは、「敬神は要するに道徳である」と説かれました。日本の

伝統を守る中庸の道とは、人々を結びつける古来の神々を祭る神社に、心のよりどころを

見いだし、敬神崇祖の誠の心を育(はぐく)む、日本人の道徳を守ることともひとつの手立

てでしょう。民俗学者であり国文学者、歌人の折口信夫(おりぐちしのぶ)さんは、

ご自愛をお祈り申し上げます。

◇四月、五月の祭典行事報告

▼月次祭 * 四月一日、十五日、五月一日、十五日

▼消防機庫竣工式 * 四月五日

▼六連島荒神社例祭 * 四月八日

▼竹の子島金刀比羅宮例祭 * 四月九日～十日

▼舟島祭 * 舟島神社例祭、佐々木小次郎慰霊祭

四月十五日

▼彦島地区戦没者慰霊祭 * 四月二十三日

▼海上安全大漁祈願祭(南風泊) * 四月二十四日

▼昭和祭 * 四月二十九日

▼塩釜祭 * 五月三日

▼豊野神社正式参拝 * 五月十五日

▼福浦金刀比羅宮例祭 * 五月二十日～二十一日

* 前夜祭、本殿祭、御神幸祭

▼手水舎龍口奉納奉告祭 * 五月二十六日

◇四月、五月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会総会 * 四月四日

◇とこわか奉納グランドゴルフ会舟島杯

* 四月九日

◇奉賛会監査、役員会 * 四月二十一日

◇敬神婦人会総会 * 五月七日

◇早起会役員会 * 五月十六日

◇奉賛会総会 * 五月二十六日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社総代会研修会 * 四月四日

◇下関支部幹事会 * 四月十二日

◇山口県神社庁役員会 * 五月十六日

◇中国地区社頭講話研修会

* 五月三十日～三十一日

▼教誨(きょうかい)活動

* 美祢社会復帰促進センター

◇集合教誨男子 * 五月二十二日

◇集合教誨女子 * 五月二十二日

▼下関西ロータリークラブ

◇例会 * 四月五日、十二日、五月十日

◇理事会 * 四月十二日、五月十日

▼講演活動

◇廣旗八幡宮祈年祭講演 * 五月十三日

▼その他

◇下関木鶏クラブ例会 * 四月一日

◇下関市立西山小学校入学式 * 四月十日

◇下関市立玄洋中学校入学式 * 四月十日

◇迫町自治会役員会 * 四月十九日

◇迫町自治会組合長会議 * 四月二十二日

◇人権擁護委員会研修会 * 四月二十五日

◇西山小学校PTA歓送迎会 * 五月十二日

◇玄洋中学校学校CS * 五月十八日

◇人権擁護委員人権相談 * 五月二十四日

◇西山小学校CS * 五月三十日

日本古来のしきたりや年中行事を「生活の古典」と呼ばれました。神代(かみよ)につながる古い昔から連続とつらなり、祖先が続けてきたしきたりや、四季折々の年中行事に日本人としての安らぎを得てきたと思うのです。生活の古典である年中行事を伝え守り継承することが、日本の力ともなりえるのではないのでしょうか。吉田松陰先生は、「備えとは武器にあらず 敷島の大和心」と諭されています。大和心(やまとこころ)とは、大いなる和らぎで、和の心をもつて、むつみあう、日本人のオブリージュ(フランス語で、果たすべき道徳という意味)です。フランスの随想家であるモンテニューさんも、「少しも他人のために生きない者は、ほとんど自分のためにも生きていない」という言葉を残していらつしやいます。地域社会の一員として、公のために生きる、これこそが、大和心だと思えます。

◇中庸の道は、「敬神」という日本人の道徳、「生活の古典」といふべきしきたり、年中行事の継承、さらに、相互扶助相互規制の「大和心」を守り伝えることだと考えます。日本人の伝統的信念の別名(べつみやう)である神社神道を伝える我々神職の使命は、日本の歩むべき中庸の道であることを信じて、しっかりと襟を正しておつとめして参りませ。これからも、宜しくお導きください。